

生活科

—生活科— 目標

具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成する。

◎児童の状況

- 作る、遊ぶ等の体験的な活動を好み、意欲的に取り組みます。
- 学校の周りに自然が残っていないため、虫とりや草花で遊ぶ等の自然体験に乏しい児童がいます。
- 自分と自然との関わりに対する興味・関心は強いが、自分と社会との関わりに対する関心が弱い傾向が見られます。
- 生活経験の不足からか、手作業の苦手な児童が多く見られます。
- 自分の気付きや気持ちを絵や言葉で表現することが苦手な児童が見られます。

◎指導についての課題

- 実生活の中で、自然との関わりや社会との関わりを増やせるようにすること。五感を働かせながら、自分とのかかわりについて考え、そこから感動や驚き、疑問などが生まれ、実感を伴った「気付き」へと結び付くような体験活動を多く取り入れる必要がある。
- 自分の気付きや気持ちを絵や言葉で表現する力が弱いので、具体的な表現の仕方を身に付けさせる指導の工夫をすること。
- 体験活動の中で、手作業的活動を多く取り入れること。

◎授業革新推進に向けての具体的な方策

- ・ 自分と社会、自然とのかかわりに対する関心を高め、自分自身や自分の生活への気付きを育てます。
- ・ 気付いたことや、思ったことを、言葉、絵などで表現する力を育てます。
- ・ 季節的なものに触れさせ、折り紙やはさみを使った活動を取り入れて作業する力を高めます。



- ・ 動植物や季節ごとの行事と関連させ、自然や社会と直接かかわる活動を充実します。
- ・ 児童同士の認め合いの場を充実します。
- ・ 身近な人々や社会とのかかわりから喜びを実感できるような単元を設定します。

◎言語活動の充実

- 感じたことを大切にし、実感を言葉に表現させる活動を通して、豊かな言語を身に付けていきます。
- 体験を通して、見付ける、比べる、例える等、多様な視点からの言葉を活用させます。
- 集団での学習活動を行い、互いに気付いたことを交流し、ものの見方、文章や発表の仕方を学ばせます。

◎その他（補充・発展指導計画・問題解決能力等）

- 表現活動の充実のため、国語を中心に、他教科等との関連指導や教科横断的な指導を工夫していきます。
- 家族や地域の一員としての自覚や自然とのかかわりを深めることができるように、家庭と連携して取り組んでいきます。
- 児童の気付きや「わかった、できた、楽しい」が実感できるように、諸感覚を使って主体的に取り組めるような活動を設定し、支援していきます。

問題解決型・探究型の授業

○各教科等の授業において、「課題設定→情報収集→分析・考察→課題解決→新たな課題設定」等の学習の流れを定着させる。

協働学習の導入

○一人ひとりが自分の考えをもつ場面、他の人の考えを聞いたり活動を見たりしながら、自分の考えと比較したり組み合わせたりして、よりよい考えを創り出す場面を設定する。

指導と評価と支援の一体化

○本時の具体的なめあてを提示し、児童がめあてに対して振り返りを行う時間を毎時間必ず設定する。